

進学・就学についての相談

事例 05

息子（17歳男子少年）は、中学生の時から非行少年の仲間に加わり、高校在学中に傷害事件を起こして少年院に送致され、高校を中退した（現在も少年院入院中）。在院中に教官や保護司から話を聞くうちに、大学進学にも関心が出てきたもよう。しかし、元の高校には戻りたくないし、今からでは遅いのではないかと諦めかけている様子。どこに相談すればいいのか教えて欲しい。

相談者：両親

A

東京都教育相談センター

i 子供の教育に関わるさまざまな相談（進路、不登校、いじめ、高校転編入・中途退学等の相談）を受け付け、電話・来所相談等で支援を行う相談機関

- まずは進路選択にあたってさまざまな相談を受け付けてくれる同センターへの相談を促した。電話で問い合わせたところ、在院中にできること、出院後の選択肢などを教えてくれ、今後の情報取得の助けになるよう、同センターの青少年リスタートプレイスへの登録を案内されたとのこと。
- 高卒資格の取得には、再び高校に就学して卒業することが必要であるが、それ以外に、高等学校卒業程度認定試験を受験し、高校卒業同等以上の学力があると認定される方法もあると言われた。
- また家計的な不安についても相談し、奨学金制度の利用や、全日制、定時制以外に**B** 通信制高校の案内も受けることができたとのこと。
- 本人が出院した後の、親としての不安を伝えると、教育相談一般の来所相談を案内され、これからも支援してもらえると安堵した様子。

出院後、
就学を目指す場合

就学の場合、通信制高校のほか、全日制や定時制の高等学校に復学する選択肢もあります。

出院後、
高卒認定試験の
合格を目指す場合

支援の ポイント

- ✓ 高卒資格取得のための選択肢の理解
- ✓ 各種支援制度の活用



相談内容

息子はどうすれば再度高校に入学したり、その先の大学・専門学校へ進学したりできますか？

B 通信制高校

i 主に自宅などで学習し、定期的にレポートを提出して添削指導を受けスクーリングを行い、テストを受けて単位を修得する高校

- 家計的に全日制、定時制の学費支払いが厳しいということと、本人もアルバイトをして貯金もしたいということで、学費が安く、働く時間がつくりやすい通信制高校を選択することにした。
- 3年程度をかけて生活スタイルを整え、家族で過ごせる時間をとりながら卒業を目指すとのこと。

C

学費等の経済的支援については奨学金制度

i 経済的困難が理由で進学、就学ができない人に対し、貸付もしくは給付により、学費を援助する制度です。

高校を卒業

大学・専門学校の受験等

高等学校卒業程度認定試験

i さまざまな理由で高等学校を卒業できなかった人のための制度。合格すれば高校卒業と同程度の学力があると認められ、大学・短大・専門学校の受験資格が得られる。また、高等学校卒業者と同等以上の学力がある者として認定され、就職、資格試験等に活用することができる。ただし、最終学歴は高等学校卒業とはならない。

- 保護者は本人にも家計を支えてほしいと考えているので、在院中から高卒認定試験の合格を目指して勉強することとなった。
- 出院後は、東京都教育相談センターから試験の案内等を受けながら、通信教育を活用して勉強していくとのこと。

高卒認定試験
合格証明書の
取得

卒業または高卒認定試験合格証明書取得後、さまざまな職業への可能性を広げるためにはこちらへ

⇒P.24
「仕事についての相談
(少年・若年者)」へ

就
労

心
身
の
不
調

少
年
本
人
の
悩
み

就
学

障
害

生
活
困
窮

薬
物

保
護
者
の
悩
み

加
齢

D
V
・
虐
待

暴
力
団



活用できる機関・団体や制度

A 東京都教育相談センター(青少年リスタートプレイス)

概要	高等学校を中途退学した方や高等学校での就学経験のない方、小学校や中学校で登校しぶりや不登校の状態にある方やその保護者等、進路についての情報や助言を得にくい状況にある方を対象に、都立高校についての情報提供や、都立高校への就学支援を行います。	
対象	原則として高校生相当年齢までの方とその保護者等	
主な支援内容	リスタートのための学校説明会	特色のある教育課程を実施している都立高校(チャレンジスクール、昼夜間定時制、通信制等)の学校説明会を行います。
	就学サポート	高等学校を中途退学した方等(現在どの学校にも籍がない方)本人に対し、都立高等学校への就学に向けた支援を行います。
連絡先等	青少年リスタートプレイスについての問い合わせ ☎03-3360-4192 [受付時間]月～金(祝日・年末年始を除く) 9:00～17:00	
URL	https://e-sodan.metro.tokyo.lg.jp/works/restart/index.html (「青少年リスタート」で検索)	

※東京都教育相談センターでは、「青少年リスタートプレイス」のほかに、教育や子育て等に関する相談事業も行っています。

B 通信制高校

概要	基本的に自宅などで自主学習し、定期的にレポートを学校に提出して添削指導を受け、スクーリング(面接指導)を行い、試験を受けて単位を修得する高校です。公立と私立があり、全日制・定時制と同じ高校卒業資格を取得できます。 自主学習が基本ですが、私立学校のなかには、全日制のように週5日、または週1日や3日など、通学コースを設けているところもあります。自由な時間が作りやすいため、仕事をしたり資格の勉強やスポーツなどに励んだりしている人も少なくありません。勉強のペースや単位の取り方など、自由に選べる点が大きな特徴です。	
特徴	都立通信制高校	・一橋高校、新宿山吹高校及び砂川高校で募集を行います。 ・基本的に自主学習で、レポートを提出し添削指導を受けます。 ・年間に20～24日間ほど学校に通って直接授業を受けるスクーリング(面接指導)があります。 ・全日制及び定時制高校と同じ高校卒業資格を取得できます。 ・高校卒業を目的としているだけでなく、大学進学対策に応じているところもあります。
	私立通信制高校	・東京都認可校は8校です。大原学園美空高校、NHK学園高校、科学技術学園高校、北豊島高校、聖パウロ学園高校、東海大学付属望星高校、目黒日本大学高校、立志舎高校 ・添削指導、面接指導及び試験を基本として、各学校がさまざまな教育をしています。 ①テレビ放送、インターネットなどのメディアを使って学習できる。 ②自主学習が苦手な生徒のために、通学コースを設けている。 ③技能連携校とのダブルスクールにより、専門科目を学びながら高校卒業を目指すことができる。 ④高校卒業を目的とするだけでなく、大学進学対策に応じている。 など
連絡先等	インターネットの通信制高校のポータルサイトや、各学校にお問い合わせください。	

C 奨学金制度

東京都や区市町村などでは、都内の経済的に困難な家庭に対し、児童・生徒の学業を支援する事業を行っています。事業ごとに、目的や貸付けの条件が異なりますので、詳細についてはホームページをご確認ください。
https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/admission/tuition/tuition/enrollment_support.html

薬物依存と闘わない

特定非営利活動法人東京ダルク

施設長 森田 邦雅

「薬物依存と闘う」「病気と闘う」「己と闘う」、苦難を打ち破って逆境に打ち克つ物語は日本人なら誰もが好むところですが、残念ながら依存症の回復は闘うことに主眼をおいていません。むしろ逆です。

自助グループの第1番目のステップに「私たちはアディクションに対して無力であり、生きていくことがどうにもならなくなったことを認めた」とあります。ここにおける「無力」とは、闘わないこと、闘いを諦めることを意味しています。薬物との果てなく虚しい闘いから降りることから始めましょうと宣言しているのです。これはつまり、薬物を闘うべき相手としている限り抜け出ることのできない仕組みがあることを表現しているとも言えます。

私がダルクにやってきた約35年前、よく言われたのは「闘うのをやめろ」ということでした。薬物をやめるために来たのに「闘うのをやめろ」とか「やめることをやめろ」とか言われるので訳が分からなかったのを今でも憶えています。詳しくは書きませんが、ダルクでのリハビリ生活は困難の連続で、この意味がわかるまで私の場合約3年かかりました。

薬物を使わなければ成功、仕事と家があればそれが回復だと信じて、意気揚々とダルクを退寮するのですが3ヶ月ともちません。これを何度も繰り返し、そのたびに仲間に救われて、自助グループに通う日々を重ねました。そこでようやく気づいたのは、薬物をやめることがミーティングに行くこと、仕事や一人暮らしよりも健康な心と新しい生き方を手に入れること、「闘わない」とは何もしないことではなくて意識の方向性を変えることでした。この方向転換に欠かせないステップが第1ステップでした。そこから、私のクリーンは肩の力が抜けた自然な日々に変化しました。

朝起きてミーティングに行き、人の話を聞いて自分の話をする、これを3回繰り返すというシンプルな毎日でした。余計なものがない単調な日々でしたが、時間が経つに連れて少しずつ自分が変えられていくことに気づきました。「闘わない」日々は「薬物を使う必要のない」日々だということにも気づきました。仕事に就き、結婚して家族にも恵まれました。以前のように、闘って勝ち取ったという感じはありません。

「求めて、必要ならば与えられる」ミーティングで仲間が言っていました。依存症は治らないが回復可能な病気だと言われます。例えば高血圧や糖尿病と同じように、治すことにこだわるよりはその病気とうまく付き合うことを考えた方が気楽です。より良く生きるために食事制限や運動をして生活するように、私たち依存者はミーティングに行って仲間と会うことでこの病気の進行を防ぎます。ここに闘いの要素は全くありません。あるのは癒しと寛容です。

こうして皆が回復を繋いでいくことで多くの薬物依存者は救われてきました。「闘わない」という逆説的な生き方、もしよければ皆さんも実践してみてください。意外と効果があります。

